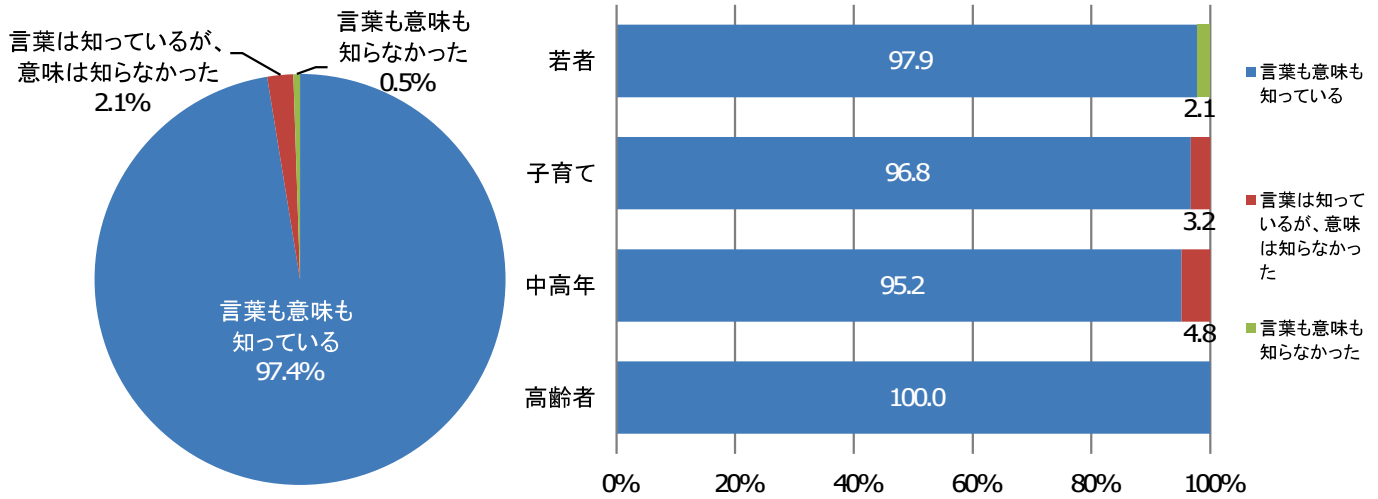


<DV(ドメスティック・バイオレンス)について>

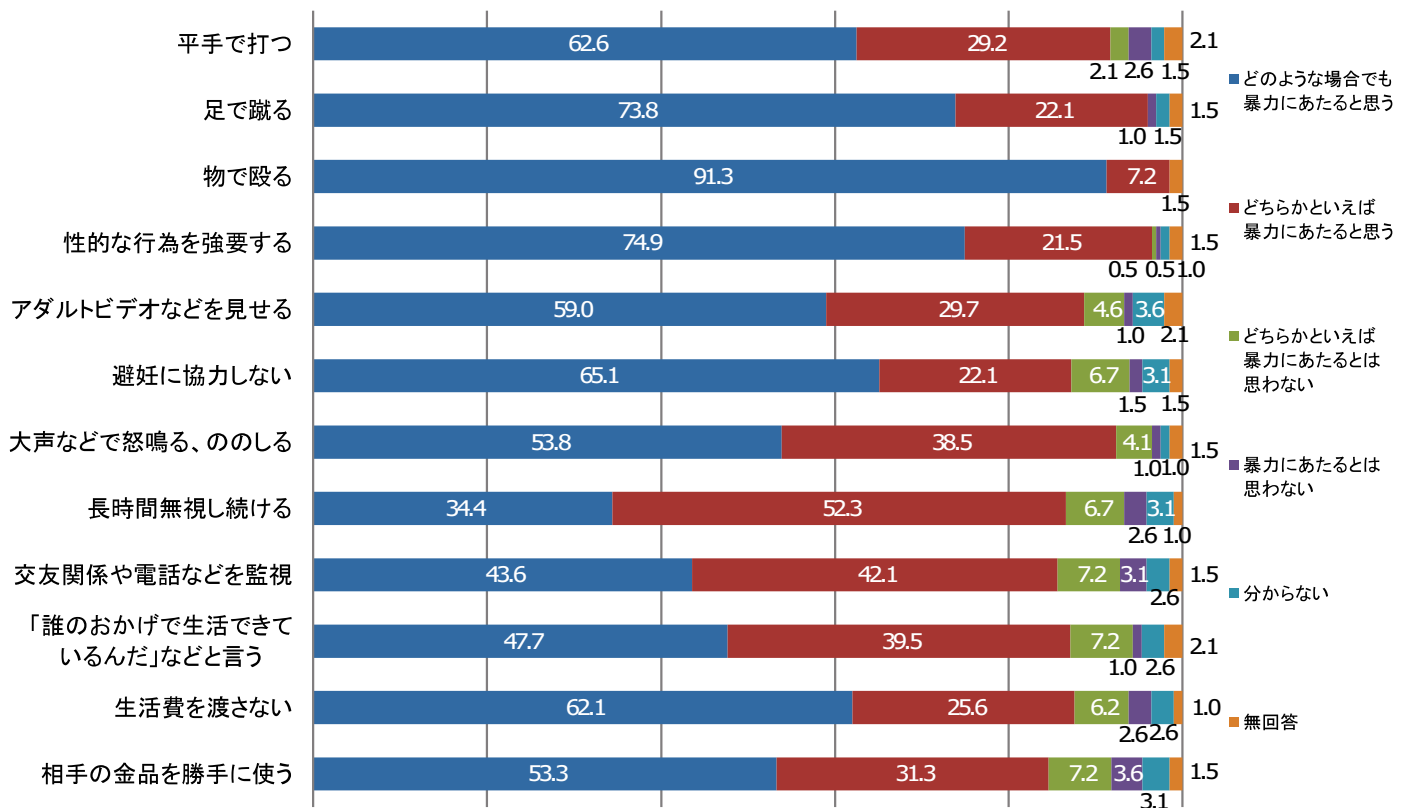
※ DV(ドメスティック・バイオレンス)とは、配偶者やパートナー(事実婚や元配偶者も含む)などの親密な関係にある者(あった者)からの暴力のことをいいます。身体的な暴力だけでなく、精神的な暴力、性的な暴力、経済的な暴力なども含まれます。性別に関係なく被害者になる可能性があります。

■問1 「DV(ドメスティック・バイオレンス)」の認知度 (N=195)



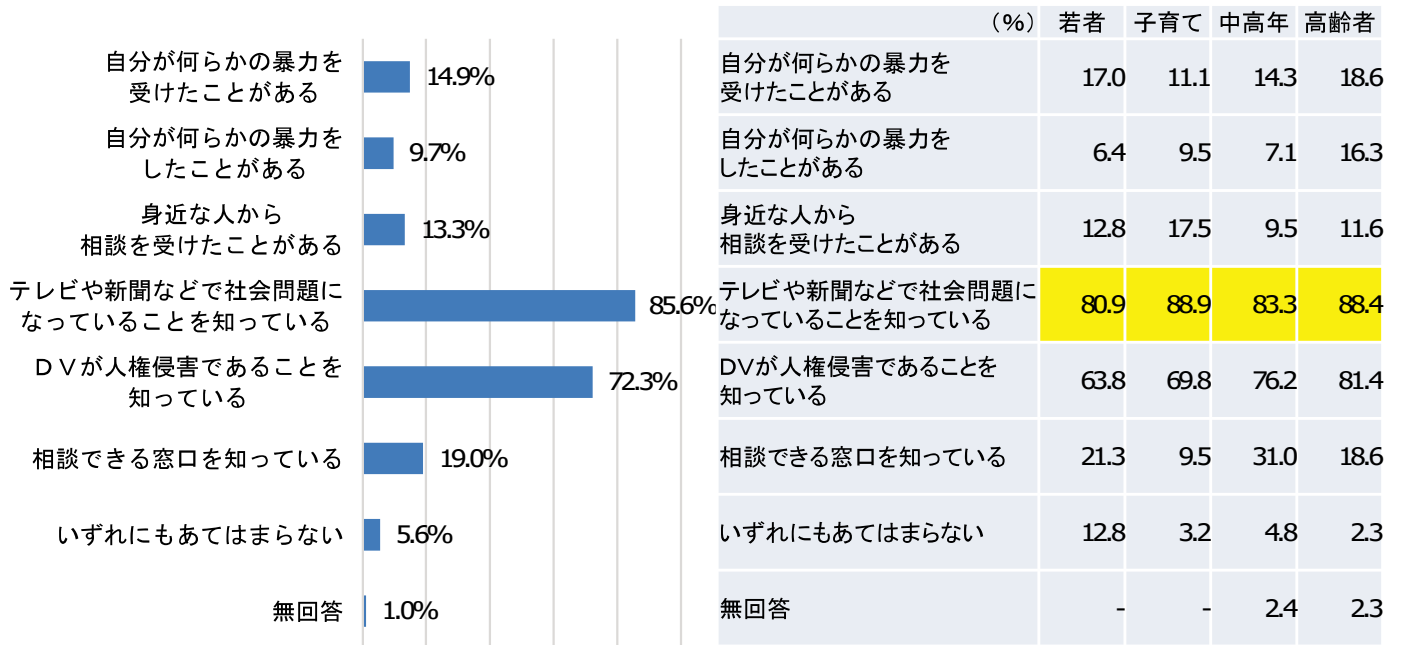
- 「DV(ドメスティック・バイオレンス)」の認知度については、「言葉も意味も知っている」が約10割となっています。
- 世代別にみても、全ての世代で「言葉も意味も知っている」が約10割となっています。

■問2 暴力にあたるかどうか (N=195)



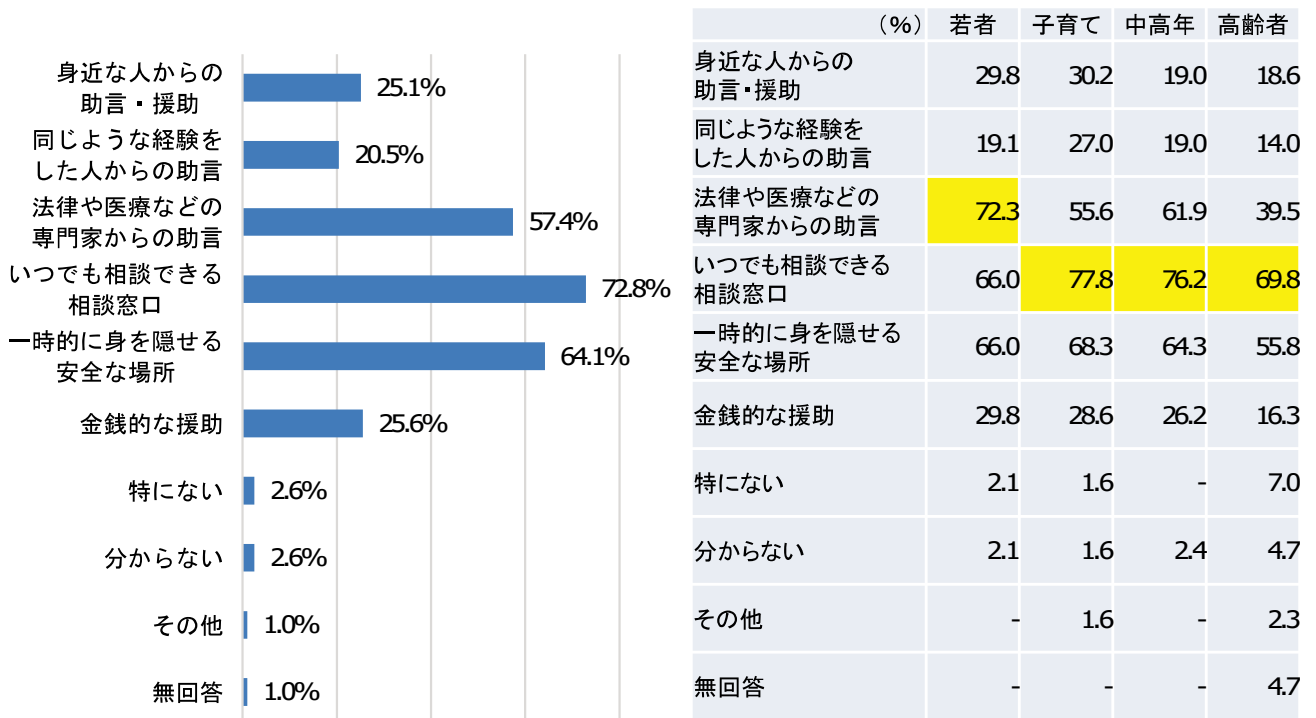
- 暴力にあたるかどうかについては、「どの様な場合でも暴力にあたると思う」のは「物で殴る」が約9割と最も高い回答となっています。
- いずれのケースも、8割以上が『暴力にあたる』(「どの様な場合でも暴力にあたると思う」と「どちらかといえば暴力にあたると思う」の合計)と回答しています。

■問3 DVについての経験や知識 (N=195 複数回答)



- DVについての経験や知識については、「テレビや新聞などで社会問題になっていることを知っている」が約9割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみても、全ての世代で「テレビや新聞などで社会問題になっていることを知っている」が最も多い回答となっています。

■問4 DVを受けた場合、どのような助けがあればよいか (N=195 複数回答3つまで)

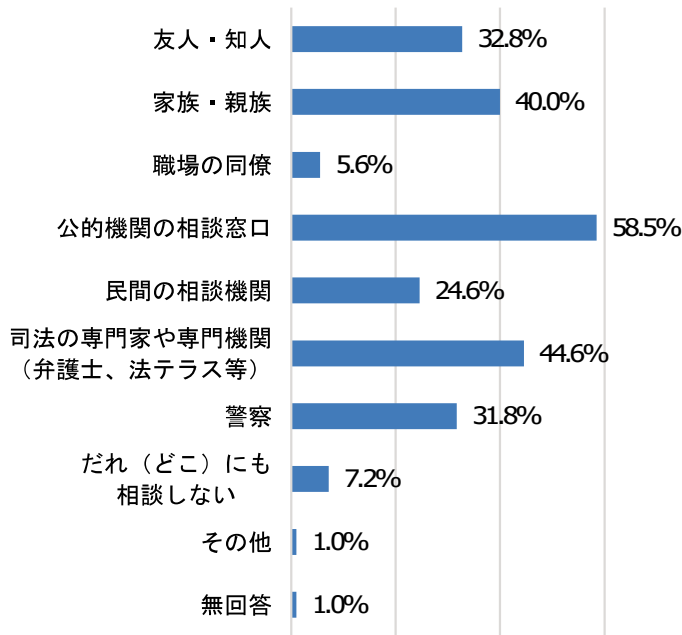


■その他意見

・加害者への対応施設

- DVを受けた場合、どのような助けがあればよいかについては、「いつでも相談できる相談窓口」が約7割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者では「法律や医療などの専門家からの助言」が、子育て・中高年・高齢者では「いつでも相談できる相談窓口」が最も多い回答となっています。

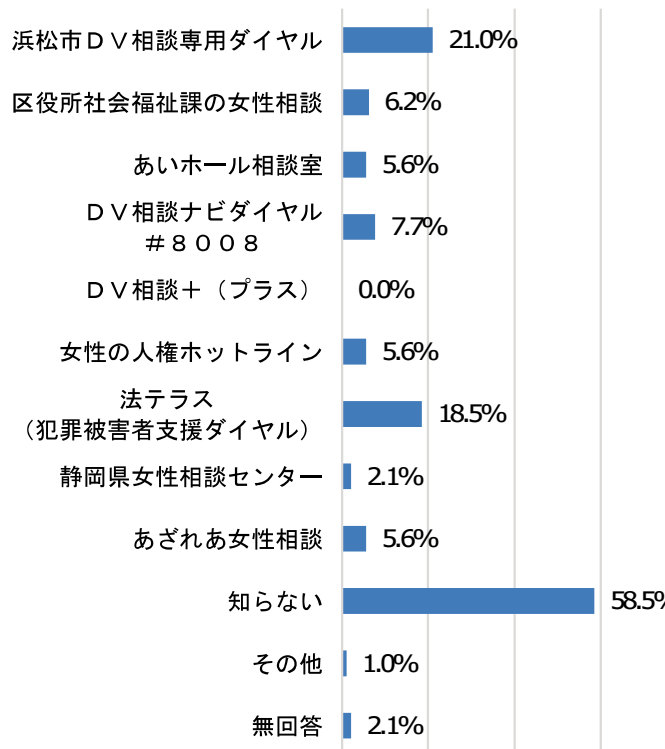
■問5 DVを受けた場合、だれ(どこ)に相談したいか (N=195 複数回答3つまで)



(%)	若者	子育て	中高年	高齢者
友人・知人	42.6	41.3	19.0	23.3
家族・親族	70.2	30.2	23.8	37.2
職場の同僚	2.1	15.9	-	-
公的機関の相談窓口	46.8	60.3	66.7	60.5
民間の相談機関	10.6	27.0	35.7	25.6
司法の専門家や専門機関 (弁護士、法テラス等)	46.8	39.7	50.0	44.2
警察	38.3	34.9	28.6	23.3
だれ(どこ)にも 相談しない	4.3	9.5	4.8	9.3
その他	-	-	-	4.7
無回答	-	-	2.4	2.3

- DVを受けた場合、だれ(どこ)に相談したいかについては、「公的機関の相談窓口」が約6割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者では「家族・親族」が、子育て・中高年・高齢者では「公的機関の相談窓口」が最も多い回答となっています。

■問6 DVの相談窓口で知っているもの (N=195 複数回答)

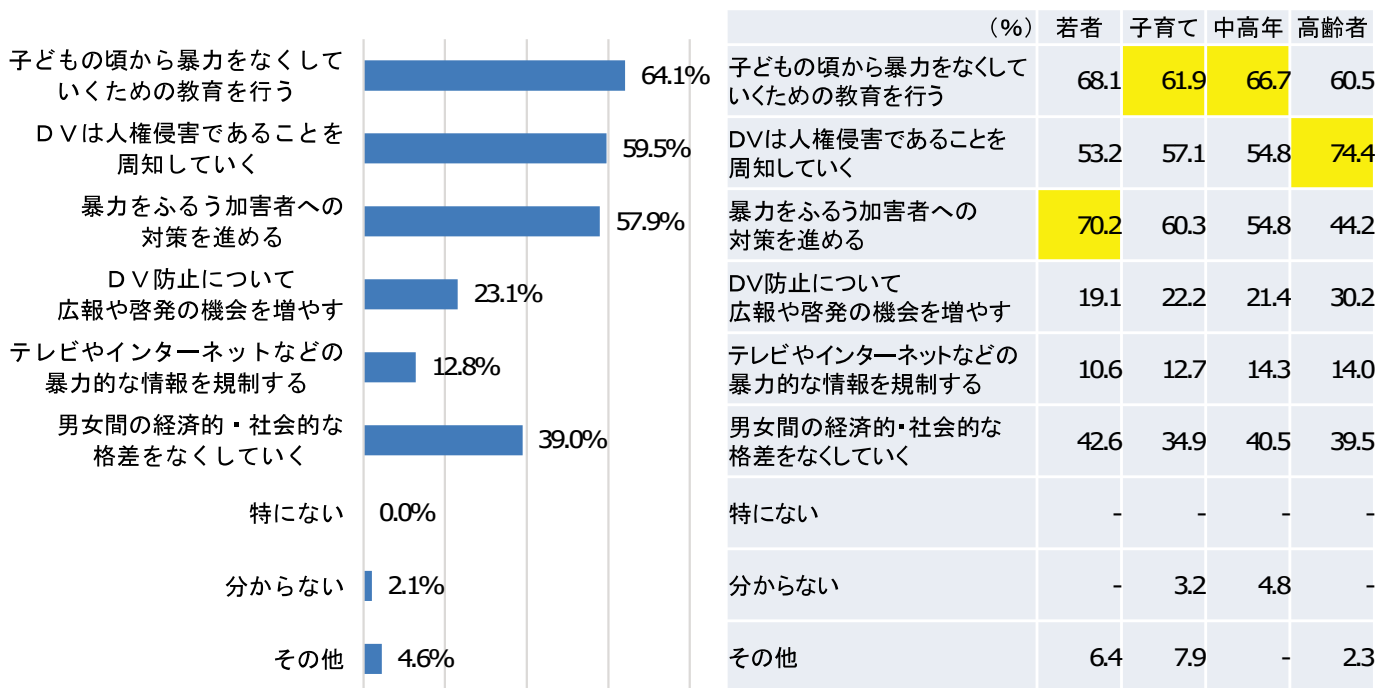


(%)	若者	子育て	中高年	高齢者
浜松市DV相談専用ダイヤル	10.6	15.9	31.0	30.2
区役所社会福祉課の女性相談	4.3	4.8	9.5	7.0
あいホール相談室	6.4	3.2	2.4	11.6
DV相談ナビダイヤル #8008	8.5	4.8	7.1	11.6
DV相談+ (プラス)	-	-	-	-
女性の人権ホットライン	10.6	-	9.5	4.7
法テラス (犯罪被害者支援ダイヤル)	19.1	15.9	23.8	16.3
静岡県女性相談センター	2.1	1.6	-	4.7
あざれあ女性相談	2.1	-	14.3	9.3
知らない	68.1	65.1	47.6	48.8
その他	-	-	-	4.7
無回答	2.1	1.6	-	4.7

- DVの相談窓口で知っているものについては、「知らない」が約6割と最も多い回答となっていますが、「知らない」を除くと「浜松市DV相談専用ダイヤル」が約2割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、「知らない」を除いて、若者では「法テラス(犯罪被害者支援ダイヤル)」が、子育て・中高年・高齢者では「浜松市DV相談専用ダイヤル」が最も多い回答となっています(子育てでは「法テラス(犯罪被害者支援ダイヤル)」も同率)。

■問7 DVをなくすために必要だと思うこと

(N=195 複数回答3つまで)



■その他意見

- ・男性でも被害者になることの周知
- ・加害者への厳罰化
- ・ゆとりのある社会
- ・相手への尊敬の心

- DVをなくすために必要だと思うことについては、「子どもの頃から暴力をなくしていくための教育を行う」が約6割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者では「暴力をふるう加害者への対策を進める」が、子育て・中高年では「子どもの頃から暴力をなくしていくための教育を行う」が、高齢者では「DVは人権侵害であることを周知していく」が最も多い回答となっています。